Japanese Unexamined Utility Model Publication No. 54-45483

Title of the Device:

Scissors having scissor pieces cut off

from a steel plate

Application No.: 52-119886 filed on September 5, 1977

Inventor: Yoshino

Yoshinobu Hasegawa

Applicant:

Kabushiki Kaisha Hasegawa Hamono

Seisakusho

Relevant part of the Publication (Claim)

Claim 1

Scissors having scissor pieces cut off from a steel plate, wherein when cutting off each scissor piece from a steel plate material, a handle section 3, 3' having an entire periphery 4, 4' is stamped out while forming a finger passing hole 2, 2 at the handle section 3, 3', wherein a plastic handle cover 5, 5' covers the inner periphery of the finger passing hole and opposite side surfaces of the handle section 3, 3', wherein the cover 5, 5' has a finger passing hole 2a, 2a', wherein the entire periphery 4, 4' of the handle section is exposed, and wherein a spatula 6 is protruded from one handle cover 5.



(قاني

(3,000円)

実用新案登録願



昭和52年9月6日

- 1. 考案の名称 解板の一体打抜き鋏片による鋏
- 3. 実用新案登録出願人

4. 代 理 人 〒500

氏 名 章理士 (5904) 仙 波 正 (ほか1名)

5. 添付書類の目録

- (1) 明細書 1 通 (2) 図 面 1 通
- (3) 願書副本 1 通 (4) 委任状 1 通 5-4-45483
- (5) 出願審查請求書 1 通 52 119886

1. 考案の名称

鋼板の一体打抜き鋏片による鉄

2. 実用新業登録請求の範囲

鍛造でなく素材の鋼板を鋏片の形状に打抜く際に、把補部3,3/を全周線4,4/迄一体に打抜き、その際把補部3,3/の内部に指連し孔2,2/を穿貨し、その内周面及び把桶部3,3/の両面を發い、かつ指通し孔2,2/に獲り幅を広くした指通し穴2a,2a/を有するプラスチックスによる把桶部カバー5,5/により成型し、把桶部3,3/の周線4,4/を露出させ、一方の把桶部カバー5 に指掛け兼用の穀もへう6を突敗した鋼板の一体打抜き鉄片による鉄。

3. 考案の詳細な説明

(考案の目的)

この考案は平板状にした鉄の把柄部に於いて、

その指通し孔の内周面及び両面をプラスチックスによる把柄部カパーにより被領成型することにより、遅り加減の向上による作業性及び指掛けを なる数ちヘラを軟けた多用性と外観に優美さとを 賦与するものである。

(従来技術)

従来狭を網板打抜き製の終片と把柄部とを別個に製作し、その後両者を一体にして挟を作ることは行なわれていたが、この際第4回のように鉄片20,20の接続部21,21はプラスチックス製の把柄部22,22の先端に鉄片20,20の基端を差込むのかで、単に外観の異化のみに資点を置いたものが多かった。従って厚物切りの際に把柄部22,22に力を強く加えると、把柄部22,22の先端が欠けたり、色数を主じたりするのみならず、把柄部22を握る手の指が作業中に非常に載れあい欠点があった。

(考案の構成)

この考案は鍛造によらず鋼板の打抜きにより平 板状の鋏片を把柄部迄同時に成型するもので、そ の損退し孔の内周面及び把柄部の両面をプラスチ ックスによる記術部カパーにより被獲成型し、一 方の把柄部カパーに指掛け兼用の裁ちへラを設け たもので、以下実施例を図に就いて説明すると第 Ⅰ 図乃至第3 図に於いて、一对の鋏片1.1/は鋼板 の業材を所要形状に打抜き、その際指通し孔2,2/ を同時に穿真して平板状の油柄部3,3/を成形する。 この両把柄部3,3/の指通し孔2,2/の内局面及び把 情部3,3/の両面をプラスチックスによる把柄部カ パー5,5/により広い幅の指通し穴2a,2a/を形成す るように指通し乳2,2/の内周を被獲成型し、その 際把桁部3,3/の周線4,4/を露出させ、カバー5の 一端には指掛け兼用の歌ちへうるを突設する。こ

の場合指通し穴28,28'の指(図示を略す)に対応する握り隔とは通常のラシャ鉄の握り幅より広い隔に形成する。その後両鉄片1,1'をロじ7により、
、文用方向に作性するように包支して鉄Aを組立てる。

この級Aを使用する際には指通し穴2a,2a/に通した各指は、その幅の広い内間面により各指の内側に対域とは各指の内側に対していてきるために、厚物切り又は長時間の操作にも疲労することなく数断その他の作業を行なう。又数断中に生地(図示を略す)に折目を附ける必要があれば鉄Aを逆向きに持ち、数ちへラ6を生地の設面に押し付けて折目を付ければよい。

(母業の対象)

この汚案は銷板の打抜きによる鋏片の平板状に 孔。 した池橋部の指通しの内角面及び両面を広い幅の

1等样人

推通し穴を取けて把柄部カバーにより被後成型し、 把柄部の局縁を酵出するようにしたので、被獲さ れない把柄部の局縁とプラスチックスによる把柄 部カバーとの調和が極めて顕著であり外観を非常 に美しく引立て、同時に強靭性を著しく高めるこ とができる。

又この考案は指述し穴の内幅を通常の鋏の約倍率 に形成したので、指に当る面積の拡大に伴なう作 案性の良さ、ひいでは厚物切り及び長時間の作業 にも指にたこずれを起したり、疲労させない効果 がある。

4. 図面の簡単な説明

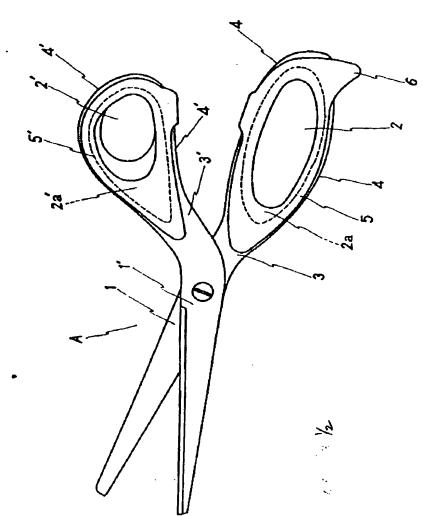
第1 図はこの考案の平面図、第2 図は側面図、 第3 図は第2 図に於ける2~2線の背面図、第4 図 は従来技術の説明図である。

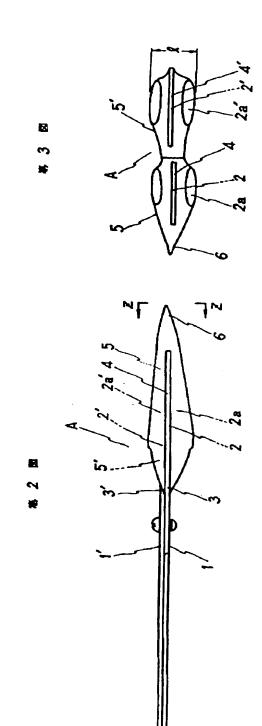
(主要部分の符号の説明)

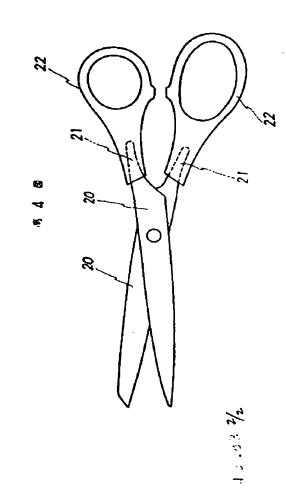
1,1/・・・鉄 片 2,2/・・・指通し孔
2a,2a/・・・指通し穴
3,3/・・・ 把柄部 A,4/・・・ 周 禄
5,5/・・・ 把柄部カベー
6・・・級 ち ヘ ラ A・・・鋏

代理人 并理士 仙 波 正 外1名









6、同心以外の代理人

氏名 井型上 (7860) 小 川 宏 剛

54-45483

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

□ BLACK BORDERS
□ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
□ FADED TEXT OR DRAWING
□ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
□ SKEWED/SLANTED IMAGES
□ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
□ GRAY SCALE DOCUMENTS
□ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
□ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

☐ OTHER:

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.